

私は、この愛華商材と言う素晴らしい商品が、20数年ばかり前に発売され、これを使用した人の中より、**日本農業賞と言う農家にとっては、最高の栄誉を獲得している人が沢山いるという事実さえ知らなかった。**

私は、40数年前から、農薬を始めとして種子等いろいろな農業用品を販売させて頂いている。そんな私が、今年の4月まで、(株)愛華の加地会長様に会うまでは、全く愛華商材について知らなかった。**大変恥ずかしい事であった。**

しかし、私は、農家に生まれ農家で育った人間なので、これまでいろいろな農家を良くする商品について勉強し、他人様に商品を販売する以上、責任をもって販売をして行きたいと、**これまでも、出来るだけ販売する商品を自ら使用実験をし、販売してきた。**

そんな私だから、今回は主に妻が担当したが、**愛華商材を使った実験を数々行った(詳しくは、アイエイチエスホットニュースブログで)。**そこで、大きな感動を覚えた。

そこで、私は、かつてから夢見ている

「殺菌剤、殺虫剤などの農薬を全く使用しない農業」が出来る事を発見した。

私は、これまで、「農薬を使わなければ、良い農産物は出来ない」と感じてきた。だから、農家にも率先して農薬を販売してきた。**この商材に出会ったことにより、そんな自分が恥ずかしかった。**

しかし、これからは、今までの罪の償いでないが、**この愛華商材を全面的に打ち出し、出来るだけ、殺菌剤、殺虫剤を使わない農業を推進して行こうと決意した。**

おかげさまで、去年は、4月以降からの商材販売ではあったが、北は北海道から、南は九州まで、多くの皆様にお買い求め頂いた。

しかし、まだ、100軒に荷は到達していない。**残念な事であるが、今年こそ、もっと多くの農家に普及して行きたいと感じている。**

また、昨年度は、使用された品目も、キュウリ、トマト、イチゴなどの主品目だけでなく、オクラ、ブロッコリー、小松菜、落花生、花、樹木、芝、ミカンなど多品目に渡った。

これを今年も、野菜、果実は出来るだけ多くの品目に拡大し、水稲農家には、スタートの種まき段階、植え付け直前、本田使用と拡大させる。落花生には、種まき前、発芽後は定期的にと、勧める。

その他の品目も、これを参考にして使用して頂ければ、間違いなく殺菌剤、殺虫剤の使用は格段に減り、安心安全、美味、栄養価の高い農産物や品質の良い花、樹木、芝が出来る。**私どもは、自らも使用した結果と言う確信の上で、この商品の普及に取り組んでいる。**

また、私共は、この愛華商材を使用して作った農作物が健康に良くて、子供が喜んで食べるものだという事実を、たった1歳2か月の子供の行動によって知った。(詳しくは、アイエイチエスホットニュースブログを)

あの高価なイチゴより、無農薬で妻が作ったブロッコリーを喜んで食べるのである。

しかし、今までは、イチゴは、無農薬栽培では絶対無理と言われていたが、熱心なイチゴ農家が私どもの配布した1枚のパンフレットにより、取り組んで頂き、現在収穫期を迎えているが、未だに、1回も農薬を使わないで取り組んで頂いている。

これが最後まで続けば、野菜には、殺菌剤、殺虫剤はいらないと言う事になるかもしれない。

私は、なぜ、(株)愛華の加地会長様が、「農業は、生命産業」と、おっしゃられたか、やっと少しわかってきた。

それは、農業と言う食べ物を作り出す産業こそ、一番大事な産業であるという認識である。人は生きて行く為に食べ物を食べ続けなければならない。

その毎日食べ続ける食べ物の良し、悪しによって、健康でいられるか、病気にかかってしまうか、決まってしまうのである。

時は、新型コロナウイルスの蔓延によって世の中が大変な事になっているが、大学病院にも掲示されているが、免疫性を持った体作りの重要性が叫ばれている。

この免疫性を持った体作りを日頃から心掛けているかによって人間の体は決まってしまうのである。

では、免疫性はどのように生まれるかというと、

殺菌剤、殺虫剤の余り使われてない農産物を多く食べる事によって生まれるのである。

今こそ、この国の多くの国民がこの事に気づき、このような食べ物を多く摂取できる社会を作って行かなければならない。

その為には、作り手である農家を今一度大事にして、この人たちを自分の生命体の一部と感じ、尊重し、又これを多くの国民にお届けするスーパーや飲食店の皆様にも、自信をもって殺菌剤、殺虫剤を使わない農産物の取り扱いを広くお願いしたい!!!

これが出来れば、農家にもお嫁さんが多く来て、農村の人手不足、限界集落の問題も解決し、病気でお医者さんの世話になる人も減り、介護施設の世話になる人も減り、国の医療費の負担も減り、財政健全化の道も開けるでしょう!!!

今年日本でオリンピックやパラリンピックの開かれる年でもあります。

この日本の良さを食べ物により、アピールするという年にもしたいと思います。

本年もよろしく申し上げます。

令和3年1月5日の新年仕事始め時の言葉

株式会社アイ・エイチ・エス
代表取締役 石井一孝